

平成 30 年度第 1～3 回地域助け合い創出研究会における主要な意見について

<課 題>

- ・サロンはやっているが、送迎の面で不自由さを感じている。地域公民館単位が良いのか、アンケートをとっていく必要がある
- ・支える側の年代の育成が大事
- ・地区の地形や公民館の場所(高い所)の都合で、参加者をどのように増やしていけばよいか
- ・研修に参加した人達だけでなく、参加しない地域の人達にも広めていくことが必要
- ・地域公民館の代表者等、もっと多く出席する必要があると思う

<意 見>

- ・生活支援のサービスについては、何が必要か、何が大事かを考える必要がある
- ・陸前高田市、住田町も色々なサロンがあることが分かった
- ・一人暮らしの方でも、余計なお世話、人に入られるのは嫌だという方もいるので、気をつけなければならない
- ・一つの地域のことが全ての地域にあてはまるわけではない。その地域に合ったことをやるのが長続きすると思う
- ・住田町も男性の参加が少ないようだが、やってきた仕事を生かせるような活動、声かけが必要
- ・住田町の 13 箇所のカフェは、年々増えているし、中高生も参加している、住民全参加型。社協が後押ししているのがいい
- ・自宅に近い場所、一人で歩いていける場所での集いがいいだろう
- ・介護予防につながることを理解できた。参加するしないあるとしても、参加した人に効果はある
- ・「生き残るのは、気づいて、変化できる者」人数ではなく、集まった人達の話し合いの中で、中味を検討しながらやってみる
- ・一箇所に集まって活動することは、灯油や電気代の節約になるので良いこと
- ・通いの場は、近い所で集まって活動するのが良い。見守りにもなる
- ・移送を取り入れられるといいのかもしれませんが、なかなか難しそう
- ・これからのあり方を、もう少し時間をかけて検討すべき
- ・地域住民、行政、交通事業者の三位が同じ責任の位置となって、協同していくことが必要と思う
- ・シルバー人材センターの活用を進めてほしい

<研究会の内容について>

- ・ 近隣の市町でこのような素晴らしい活動をしていることを初めて知った
- ・ 今後も、他地区(市町村)の参考事例を聞きたい
- ・ 大変いい話し合いの場、情報交換になった
- ・ 情報交換の時間が足りなかった
- ・ 資料はカラーでいただけるとありがたい